

平成21年第2回青森県登録販売者試験について

1 概要

出願者 691名

受験者 682名

合格者 188名 合格率 27.6% (四捨五入)

2 合格基準

総得点の7割であって、かつ、各項目の得点が4割以上

3 試験成績

	手引き第1章 (20点)	手引き第2章 (20点)	手引き第3章 (40点)	手引き第4章 (20点)	手引き第5章 (20点)	総得点 (120点)
最高得点	19	20	40	20	20	115
最低得点	5	3	6	1	3	28
平均点	14.1	11.9	23.1	11.0	12.3	72.3

※平均点は小数点第1位を四捨五入

注意事項

(1) 得点の閲覧

得点の閲覧を希望する方は、受験票及び身分を確認できるもの（運転免許証等）を持参し、青森県庁北棟6階の医療薬務課へお越しください。（地下に駐車場あり。）

閲覧受付期間

平成21年9月25日（金）～ 10月24日（土） 午前9時～午後5時

（ただし、土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日を除く。）

(2) 受験票

不合格者のうち、次回の登録販売者試験を受験する方については、受験票をもって添付書類に代えることを認めますので、紛失しないでください。

紛失した場合は、通常どおり添付書類が必要となります。

(3) 合格通知書

合格通知書の発送は、未着防止のため10月1日とします。

合格者で転居された方は、9月末までに医療薬務課へ連絡してください。

(4) 平成22年試験日程

平成22年8月頃に実施する予定としています。

4 正解

問 8 9 及び問 1 0 2 については、不適切問題として取扱い、全員に加点しました。

問	正解
問 1	4
問 2	2
問 3	5
問 4	5
問 5	3
問 6	3
問 7	5
問 8	4
問 9	4
問 1 0	2
問 1 1	3
問 1 2	1
問 1 3	4
問 1 4	1
問 1 5	4
問 1 6	1
問 1 7	4
問 1 8	3
問 1 9	4
問 2 0	1
問 2 1	4
問 2 2	5
問 2 3	2
問 2 4	5
問 2 5	2
問 2 6	5
問 2 7	1
問 2 8	4
問 2 9	1
問 3 0	4
問 3 1	2
問 3 2	2
問 3 3	4
問 3 4	4
問 3 5	2
問 3 6	1
問 3 7	2
問 3 8	1
問 3 9	3
問 4 0	1

問	正解
問 4 1	4
問 4 2	3
問 4 3	1
問 4 4	3
問 4 5	3
問 4 6	5
問 4 7	4
問 4 8	5
問 4 9	2
問 5 0	2
問 5 1	4
問 5 2	2
問 5 3	3
問 5 4	3
問 5 5	1
問 5 6	5
問 5 7	3
問 5 8	4
問 5 9	3
問 6 0	1
問 6 1	4
問 6 2	2
問 6 3	3
問 6 4	5
問 6 5	4
問 6 6	3
問 6 7	4
問 6 8	1
問 6 9	4
問 7 0	2
問 7 1	2
問 7 2	3
問 7 3	2
問 7 4	3
問 7 5	3
問 7 6	4
問 7 7	1
問 7 8	1
問 7 9	4
問 8 0	5

問	正解
問 8 1	3
問 8 2	5
問 8 3	2
問 8 4	3
問 8 5	1
問 8 6	2
問 8 7	1
問 8 8	4
問 8 9	全員加点
問 9 0	4
問 9 1	4
問 9 2	3
問 9 3	1
問 9 4	4
問 9 5	1
問 9 6	5
問 9 7	2
問 9 8	2
問 9 9	1
問 1 0 0	1
問 1 0 1	3
問 1 0 2	全員加点
問 1 0 3	1
問 1 0 4	3
問 1 0 5	4
問 1 0 6	2
問 1 0 7	1
問 1 0 8	1
問 1 0 9	1
問 1 1 0	4
問 1 1 1	3
問 1 1 2	3
問 1 1 3	4
問 1 1 4	3
問 1 1 5	2
問 1 1 6	2
問 1 1 7	2
問 1 1 8	1
問 1 1 9	1
問 1 2 0	5

5 不適切問題について

問 89

正解なし（当初予定していた正解は5）

選択肢 a について、登録販売者試験問題の作成の手引きでは、特別用途食品は、乳児、幼児、妊産婦、高齢者、又は病者の発育又は健康の保持等の用途に適する旨を表示した食品とされているが、設問では乳児並びに幼児に限定してしまったため。

問 102

正解なし（当初予定していた正解は3）

選択肢 3 について、登録販売者試験問題の作成の手引きには「医薬関係者」と記載されているものを誤って「医療関係者」と記載したため。

問1 次の記述は医薬品の本質に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品が人体に及ぼす作用は、複雑、かつ、多岐に渡り、そのすべてが解明されているわけではない。
- b 医薬品の薬効には好ましくない反応（副作用）も含まれる。
- c 人体に対して使用されない医薬品は、誤って人体がそれに曝^{さら}されても健康を害することはない。
- d 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品である。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問2 医薬品の本質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医療用医薬品に比較し一般用医薬品はリスクが相対的に低いので、保健衛生上の注意は必要でない。
- b 検査薬は、人体に対して直接使用されないため、人の健康に影響を与えることはない。
- c 医薬品の適正な使用を図るには、科学的根拠に基づく適切な理解や判断が必要である。
- d 一般の生活者においては、一般用医薬品の添付文書や製品表示に記載された内容を見ただけでは、効能、効果や副作用について誤解や認識不足を生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問3 医薬品の本質に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品の有効性については、市販前に確認されているので、市販後の確認は行われない。
- 2 一般用医薬品には、製品に添付されている文書（添付文書）や製品表示に必要な情報が記載されている。
- 3 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。
- 4 販売時の取扱い、製品の成分分量、効能効果、用法用量、使用上の注意が変更になった場合には、それが添付文書や製品表示の記載に反映される。

問4 医薬品の作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a WHO（世界保健機関）の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の有害かつ意図しない反応」とされている。
- b 薬という物質、すなわち薬物が生体の生理機能に影響を与えることを生理作用という。
- c 副作用は、眠気や口渴等の比較的良好に見られるものをいい、日常生活に支障を来す程度の健康被害を生じる重大なものは含まれない。
- d 副作用には、薬物によるアレルギー（過敏反応）が関与するものがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問5 医薬品の作用に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 医薬品を十分注意して適正に使用した場合には、副作用を生じることはない。
- 2 医薬品には、アレルギーを起こす可能性のある鶏卵を原材料として作られているものはない。
- 3 複数の疾病を有する人の場合、ある疾病のために使用された医薬品の作用により、別の疾病の症状が悪化したり、治療が妨げられたりすることがある。
- 4 医薬品によるアレルギーは内服薬だけに限られ、外用薬で引き起こされることはない。

問6 次の1～5で示される訴訟のうち、医薬品による副作用等にかかる訴訟以外の訴訟はどれか。

- 1 サリドマイド訴訟
- 2 スモン訴訟
- 3 HIV訴訟
- 4 CJD訴訟
- 5 水俣病訴訟

問7 医薬品と他の医薬品や食品との相互作用に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 相互作用によって医薬品の作用が増強することはあるが、減弱することはない。
- 2 保健機能食品は、医薬品と相互作用を起こすことはない。
- 3 複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれ使用する医薬品の種類が異なることから、医薬品同士の相互作用に関して特に注意する必要はない。
- 4 相互作用には、医薬品が吸収、代謝、分布又は排泄される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。

問8 医薬品と食品との飲み合わせに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 生薬成分を含有する食品と合わせて摂取すると、生薬成分が配合された医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。
- b 食品との相互作用は、専ら飲み薬（内服薬）の使用に際して注意を要する。
- c カフェインやビタミンA等のように、食品中には医薬品の成分と同じ物質が存在する場合があります、それらを含む医薬品と食品と一緒に服用すると過剰摂取となるものがある。
- d アルコールは、主として小腸で代謝されるため、酒類（アルコール）をよく摂取する者では、その代謝機能が高まっていることが多い。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	誤

問9 次の記述は、高齢者の医薬品の使用に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 高齢者は、嚥^{えん}下障害を持つ場合があるので、内服薬を使用した際に便秘の副作用を起こしやすい。
- b 高齢者は、医薬品の説明を理解するのに時間がかかる場合があるので、情報提供や相談対応においては特段の配慮が必要である。
- c 高齢者は基礎疾患を抱えていることが多いが、一般用医薬品を用法用量どおりに使用していれば、基礎疾患の症状悪化や治療の妨げになることはない。
- d 医薬品の使用上の注意等において「高齢者」という場合には、おおよその目安として65歳以上を指す。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問10 小児等の医薬品の使用に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 小児は、大人と比べて医薬品の成分が脳に達しにくいいため、中枢神経系に影響を与える医薬品では副作用を起こしにくい。
- 2 小児は、医薬品の成分の代謝・排泄が速いため、作用が強く出過ぎたり、副作用がより強く出ることがある。
- 3 成人用の医薬品を小児に与える場合は、成人用の服用量を年齢に応じて適宜減らして服用させる。
- 4 乳児は、基本的には医師の診療を受けることが優先され、一般用医薬品による対処は最小限にとどめることが望ましい。

問11 妊婦又は妊娠していると思われる女性の医薬品使用に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ビタミンA含有製剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると、胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。
- 2 一般用医薬品においては、多くの場合、妊婦が使用した際の安全性に関する評価が困難であるため、妊婦の使用について「相談すること」としているものが多い。
- 3 胎盤には、胎児の血液と母胎の血液とが混じりあう仕組みとして、胎盤関門が存在し、医薬品を使用するとその成分はこれを通り胎児へ移行する。
- 4 便秘薬のように、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがある一般用医薬品も存在する。

問12 プラセボ効果に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に(a)によらない作用を生じることをプラセボ効果(偽薬効果)という。プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による(b)な結果への期待や、条件付けによる生体反応、時間経過による(c)な変化等が関与して生じると考えられている。

- | | a | b | c |
|---|------|-----|-------|
| 1 | 生理作用 | 楽観的 | 自然発生的 |
| 2 | 生理作用 | 悲観的 | 自然発生的 |
| 3 | 薬理作用 | 楽観的 | 自然発生的 |
| 4 | 薬理作用 | 悲観的 | 人為的 |
| 5 | 代謝作用 | 楽観的 | 人為的 |

問13 次の記述は、医薬品の品質に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 液剤などでは、いったん開封しても、「使用期限」まで品質が保持される。
- b 医薬品に異物の混入がある場合、健康被害の発生の可能性が無くても販売してはならない。
- c 一般用医薬品では、購入後すぐに使用されるとは限らないことから、外箱等に記載されている「使用期限」から十分な余裕を持って販売がなされることも重要である。
- d 医薬品は、適切な保管・陳列がなされていれば、経時変化による品質の劣化を避けることができる。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問14 一般用医薬品に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 一般用医薬品は、薬事法により定義されている。
- 2 一般用医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等に対して常に科学的な根拠に基づいた正確な情報提供を行い、セルフメディケーションを適切に支援していくことが期待されている。
- 3 一般用医薬品は主として軽医療の分野で使用されるものである。
- 4 一般用医薬品には衛生害虫の防除、殺菌消毒等といった保健衛生上の役割は持たされていない。

問15 適切な医薬品選択と受診勧奨に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 高熱や激しい腹痛など、症状が重いときには、ただちに一般用医薬品を使用して症状の軽減を図ることが適切な対処といえる。
- 2 一般用医薬品で対処可能な範囲は、乳幼児や妊婦など、医薬品を使用する人によって変わってくる。
- 3 体調の不調や軽度の症状等について一般用医薬品を使用して対処した場合であっても、一定期間若しくは一定回数使用しても症状の改善がみられない又は悪化したときには、医師の診察を受けることが望ましい。
- 4 一般用医薬品の購入者への情報提供は、必ずしも医薬品の販売に結び付けるのではなく、医療機関の受診を勧めたり、医薬品の使用によらない対処を勧めることが適切な場合があることにも留意する。

問16 次の記述は、一般用医薬品の販売時におけるコミュニケーションに関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a その医薬品を使用する人が、相互作用や飲み合わせで問題を生じるおそれのあるものを摂取していないかを確認する。
- b 家庭における常備薬として購入される場合であっても、購入者側の状況の把握に努めることが望ましい。
- c 一般用医薬品の適正な使用のために必要な情報は、基本的に添付文書や製品表示に記載されているので、特に個々の購入者や使用者の状況を把握する必要はない。
- d 購入者側に情報提供を受けようとする意識が乏しい場合は、コミュニケーションを図る必要はない。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問17 一般用医薬品を販売する際に、医薬品の販売に従事する専門家が購入者から確認しておきたい基本的ポイントがいくつかある。

次の1～5で示される基本的ポイントのうち、不適當なものはどれか。

- 1 医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。
- 2 健康保険に加入しているか。
- 3 何のためにその医薬品を購入しようとしているか。
- 4 その医薬品がすぐに使用される状況にあるか。
- 5 その医薬品を使用する人として、小児や高齢者、妊婦等が想定されるか。

問18 スモンに関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 スモンの一般的症状には、持続する高熱がある。
- 2 スモン訴訟を契機として、生物由来製品による感染等被害救済制度が創設された。
- 3 スモン訴訟は、患者の早期救済のためには、和解による解決が望ましいとの各地の地裁、高裁の勧告にもかかわらず、未だ全面和解に至っていない。
- 4 スモン訴訟とは、整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症（スモン）に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。

問19 以下のセルフメディケーションに関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

WHOによれば、セルフメディケーションとは、「自分自身の(a)に責任を持ち、(b)身体の不調は自分で手当てする」とされている。

	a	b
1	健康	緊急の
2	医薬品の保管	緊急の
3	健康	軽度な
4	医薬品の保管	軽度な
5	行動	軽度な

問20 一般用医薬品に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品の種類によっては、体に吸収された医薬品の成分の一部が乳汁中に移行する。
- 2 乳幼児に好ましくない影響が及ぶことが知られている医薬品については、授乳期間中の使用を避けるか、使用後しばらくの間は授乳を避けることができるよう、授乳婦に対して、積極的な情報提供がなされる必要がある。
- 3 医療機関・薬局で交付された薬剤を使用している人については、登録販売者において一般用医薬品との併用の可否を判断することは困難なことが多く、その薬剤を処方した医師若しくは歯科医師又は調剤を行った薬剤師に相談するよう説明する必要がある。
- 4 保健衛生上のリスクを伴うものは、医薬品とはいえない。

問21 かぜに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぜの症状には、悪心・嘔吐^{おう}や下痢等の消化器症状も含まれる。
- b かぜの原因のほとんどはウイルスの感染によるものであり、生体にもともと備わっている免疫機構によってウイルスが排除されれば、かぜの諸症状は自然に治る。
- c かぜとよく似た症状が現れる疾患は多数あり、急激な発熱を伴う場合や、症状が4日以上続くとき又は悪化するようなときは、かぜではない可能性が高い。
- d インフルエンザ（流行性感冒）は、かぜと同様、ウイルスの呼吸器感染によるものであるが、感染力が強く、また、重症化しやすいため、かぜとは区別して扱われる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問22 かぜ薬に配合される主な成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 解熱鎮痛成分としてアセトアミノフェンが配合されたかぜ薬は、15歳未満の小児で水痘^{とう}又はインフルエンザにかかっているときは使用を避ける必要がある。
- b リン酸コデイン、リン酸ジヒドロコデインは、延髄^{ずい}の咳嗽^{がいそう}中枢^{せき}に作用して咳を抑える成分であるが、依存性があり、長期連用や大量摂取によって、薬物依存につながるおそれがある。
- c 去痰^{たん}成分は、塩酸ブロムヘキシンのように、気道粘膜からの分泌を促進する作用を示すものと、塩酸メチルシステインのように、痰^{たん}の中の粘性蛋白質^{たん}に作用してその粘りけを減少させるものの2つに大別される。
- d アドレナリン作動成分である塩酸メチルエフェドリンは、交感神経系を抑制して気管支を収縮させ、呼吸を楽^{せき}にして咳を鎮める作用を示す。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問23 眠気を促す薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 妊娠中にしばしば生じる睡眠障害は、ホルモンのバランスや体型の変化等によるものであるため、塩酸ジフェンヒドラミンではなく、ブロムワレリル尿素を用いることが望ましい。
- b アリルイソプロピルアセチル尿素は、脳の興奮を抑え、痛み等を感じる感覚を鈍くする作用を示す。
- c 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、中枢作用が強いため、慢性的な不眠症状に対して用いられる。
- d 桔梗湯は、不眠の症状の改善を目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問24 鎮暈薬に配合される主な成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩酸ジフェニドールの副作用として、頭痛、散瞳による異常な眩しさ、口渇が現れることがある。
- b ジメンヒドリナートや塩酸メクリジンは、専ら乗物酔い防止薬に配合される抗ヒスタミン成分である。
- c 臭化水素酸スコポラミンは、乗物酔い防止に古くから用いられている抗コリン成分であり、抗ヒスタミン成分と比べて作用の持続時間が長い。
- d 胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげ、乗物酔いに伴う吐き気を抑えることを目的として、カフェイン（無水カフェインを含む。）やジプロフィリンのような局所麻酔成分が配合されている場合がある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問25 小児に現れる症状及びそれらを適応症とする小児鎮静薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 小児では、特段身体的な問題がなく、基本的な欲求が満たされていても、夜泣き、ひきつけ、疳かんの虫等の症状が現れることがある。
- b ゴオウ、ジャコウ等の生薬成分が配合されている場合があるが、いずれも古くから伝統的に用いられているものであり、作用が穏やかで小児に用いても副作用は全く無い。
- c 抑肝散よくかんさんを小児の夜泣きに用いる場合、1週間位服用しても症状の改善がみられないときには、いったん服用を中止して、専門家に相談する等、その使用が適しているかどうか見直すことが望ましい。
- d 構成生薬としてマオウを含む神秘湯しんぴとうは、小児虚弱体質、疲労倦怠けん、神経質、小児夜尿症、夜泣きに適すとされる。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問26 口腔咽喉薬くういんこう・含嗽薬そうに関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a トローチ剤やドロップ剤は、有効成分が口腔内や咽頭部いんに行き渡るように、噛まずにゆっくり溶かすように使用されることが重要で、噛み砕いて飲み込んでしまうと効果は期待できない。
- b 噴射式の液剤では、むせることがあるので、声を出しながら噴射してはいけない。
- c 含嗽薬そうは、用時水で希釈又は溶解して使用するものが多いが、調製した濃度が濃ければ濃いほど効果が高くなる。
- d 含嗽薬そうの使用後すぐに食事を摂ると、殺菌消毒効果が薄れやすい。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問27 次の表は、あるかぜ薬に含まれている成分の一覧である。このかぜ薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との対応について、正しいものの組み合わせはどれか。

9錠中	
アセトアミノフェン	390mg
トラネキサム酸	420mg
エテンザミド	850mg
d-マレイン酸クロルフェニラミン	3.5mg
ヒベンズ酸チペピジン	75mg
d-塩酸メチルエフェドリン	60mg
無水カフェイン	75mg

- a トラネキサム酸 _____ 炎症の発生を抑え、腫れを和らげる。
b エテンザミド _____ 脳に軽い興奮状態を引き起こし、倦怠感を抑える。
c d-マレイン酸クロルフェニラミン _____ 痰の中の粘性蛋白質に作用して、痰の切れをよくする。
d ヒベンズ酸チペピジン _____ 中枢神経系に作用し、咳を抑える。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問28 カフェインに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 副作用として、振戦（震え）、めまい、不眠、頭痛を生じることがある。
b 腎臓での水分再吸収を抑制する働きがあり、尿量の増加（利尿）をもたらす。
c 胃液の分泌を抑制する作用があり、胃潰瘍の診断を受けた人は服用を避ける必要がある。
d 心筋を興奮させる作用があり、副作用として動悸が現れることがあるので、心臓病の診断を受けた人は服用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	正	誤	誤

問29 痛みや発熱が起こる仕組み及び解熱鎮痛薬に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 痛みや発熱は、体内で産生されるアルドステロンの働きによって生じる。
- 2 月経痛（生理痛）は解熱鎮痛薬の効能・効果に含まれているが、腹痛を含む痙攣性^{けいれん}の内臓痛については発生の仕組みが異なるため、一部の漢方処方製剤を除き、解熱鎮痛薬の効果は期待できない。
- 3 アスピリンには、主として血液を凝固しにくくさせる作用があるため、血栓ができやすい人に対する血栓予防薬の成分としても用いられている。
- 4 化学的に合成された解熱鎮痛成分の副作用として生じる喘息^{ぜん}については、「アスピリン喘息^{ぜん}」が知られているが、アスピリン特有の副作用ではなく、他の解熱鎮痛成分でも生じる可能性がある。

問30 口腔咽喉薬^{くわいんこう}・含嗽薬^{そう}に配合される成分とその成分を配合する目的との対応について、正しいものの組み合わせはどれか。

- | | | | |
|---|----------------|-------|---|
| a | 塩化リゾチーム | ————— | 喉 ^{のど} の痛み又は喉 ^{のど} の腫れ ^は の症状を鎮める。 |
| b | 塩化デカリニウム | ————— | 喉 ^{のど} の粘膜を刺激から保護する。 |
| c | グリチルリチン酸二カリウム | ——— | 口腔内 ^{くわう} や喉 ^{のど} に付着した細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑える。 |
| d | アズレンスルホン酸ナトリウム | ——— | 炎症を生じた粘膜組織の修復を促す。 |

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問31 第1欄の記述は鎮咳去痰薬に配合される気管支拡張成分に関するものである。

()の中に入れるべき字句について、第2欄に掲げる成分のうち最も適するものはどれか。

第1欄

()は、自律神経系を介さずに気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる成分であり、中枢神経系を興奮させる作用を示し、甲状腺機能障害又はてんかんの診断を受けた人では、症状の悪化を招くおそれがある。

第2欄

- 1 ジプロフィリン
- 2 塩酸メチルエフェドリン
- 3 塩酸メトキシフェナミン
- 4 塩酸トリメトキノール
- 5 メチルエフェドリンサッカリン塩

問32 第1欄の記述は胃腸に作用する薬に関するものである。第1欄の記述に該当する成分として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

アルミニウムを含んでおり、透析療法を受けている人が長期間服用した場合にアルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を引き起こしたとの報告があることから、透析を受けている人は使用を避ける必要がある。

第2欄

- 1 ゲファルナート
- 2 テプレノン
- 3 塩酸ロペラミド
- 4 塩酸セトラキサート
- 5 アルジオキサ

問33 健胃成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a オウバクは、ミカン科キハダの樹皮であり、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- b センブリは、香りによる健胃作用を期待して用いられる。
- c ケイヒは、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- d ユウタンは、苦味による健胃作用を期待して用いられるほか、消化成分として配合される場合もある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	正	誤

問34 胃の薬の配合に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 胃粘膜の炎症を和らげることを目的として、ウルソデオキシコール酸が配合されている場合がある。
- b 胃粘液の分泌を促す、胃粘膜を覆って胃液による消化から保護する、荒れた胃粘膜の修復を促す等の作用を期待して、スクラルファートが配合されている場合がある。
- c 消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として、ジメチルポリシロキサン（別名ジメチコン）が配合されている場合がある。
- d 過剰な胃液の分泌を抑える作用を期待して、グリチルリチン酸二カリウムが配合されている場合がある。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問35 止瀉成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a タンニン酸アルブミンについては、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがあるため、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
- b 収斂成分を主体とする止瀉薬については、細菌性の下痢や食中毒の時に使用する。
- c 塩酸ロペラミドが配合された止瀉薬については、食あたりや水あたりによる下痢を適用としている。
- d 次没食子酸ビスマス、次硝酸ビスマス等のビスマスを含む成分については、海外において長期連用した場合に精神神経症状（不安、記憶力減退、注意力低下、頭痛等）が現れたとの報告があり、1週間以上継続して使用しないこととされている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	正

問36 瀉下薬に配合される成分とその成分を配合する目的との対応について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a マルツエキス ————— 小腸を刺激する。
- b センノシド ————— 大腸を刺激する。
- c カルメロースナトリウム — 水分を吸収し糞便のかさを増し柔らかくする。
- d ヒマシ油 ————— ガスによって便通を促す。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問37 次の1～5で示される漢方処方製剤のうち、胃の不調を改善する目的で用いられるものはどれか。

- 1 だいおうかんぞうとう 大黄甘草湯
- 2 ましにんがん 麻子仁丸
- 3 あんちゅうさん 安中散
- 4 けいしかしやくやくとう 桂枝加芍薬湯
- 5 だいおうぼたんびとう 大黄牡丹皮湯

問38 強心薬に配合される成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用することとされている。
- b ジャコウには、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる作用があるとされる。
- c ゴオウには、強心作用のほか、末梢血管の収縮による血圧上昇、興奮作用があるとされる。
- d ロクジョウには、強心作用のほか、強壯、血行促進の作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	正	誤

問39 高コレステロール改善成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a リボフラビンの摂取によって尿が黄色くなることがあり、この場合は使用を中止し、使用の適否について医師または薬剤師に相談がなされることが望ましい。
- b 大豆油不^{けん}飽化物（ソイステロール）には、末梢組織におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- c ビタミンEはコレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされ、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺^{しび}れ）の緩和等を目的として用いられる。
- d パンテチンは、肝臓におけるコレステロール代謝を正常化する働きがあるとされ、低密度リポ蛋白質^{たん}（LDL）を増加させ、高密度リポ蛋白質^{たん}（HDL）の分解を促す。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問40 循環器用薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との対応について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ユビデカレノン — 高血圧等に伴うのぼせ、肩こり、耳鳴り、頭重感の改善
- b コウカ ————— 末梢の血行を促して鬱^{うっ}血を除く
- c ヘプロニカート — 心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによる血液循環の改善
- d ルチン ————— 高血圧等における毛細血管の補強、強化

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問41 外用痔疾用薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アラントイン ————— 創傷の治癒を促す
- b 塩酸ジフェンヒドラミン —— 痔疾患に伴う局所の感染を防止
- c グリチルレチン酸 ————— 抗炎症作用
- d シコン ————— 痔に伴う痒みを和らげる

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問42 痔及び痔疾用薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 痔は、肛門付近の血管が鬱血し、肛門に負担がかかることによって生じる肛門の病気の総称である。
- b 痔核は、肛門内部に存在する肛門腺窩と呼ばれる小さなくぼみに糞便の滓が溜まって炎症・化膿を生じた状態である。
- c 長時間座るのを避け、軽い運動によって血行を良くすることは痔の予防につながる。
- d 一般用医薬品の痔疾用薬は、坐剤、軟膏剤又は外用液剤等、外用のものに限られる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問43 次の婦人薬に配合されている生薬成分のうち、血行を改善し、血色不良や冷えの症状緩和作用を期待して用いられるものの正しい組み合わせはどれか。

- a オウレン
- b モクツウ
- c トウキ
- d センキュウ

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問44 女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる漢方処方製剤のうち、マオウを含有するものはどれか。

- 1 四物湯しもつとう 2 五積散ごしゃくさん 3 当帰芍薬散とうきしゃくやくさん 4 桃核承気湯とうかくじょうきとう
 5 温経湯うんけいとう

問45 鼻炎用内服薬に含まれている成分とその成分に関する記述の関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a マレイン酸クロルフェニラミン — 肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える。
 b 塩酸フェニレフリン ————— 副交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を拡張させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげる。
 c ベラドンナ総アルカロイド ——— 鼻腔内の粘液分泌腺くうからの粘液の分泌を抑える。
 d メキタジン ————— 皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問46 第1欄の記述は、アレルギー用薬として用いられる漢方処方製剤に関するものである。第1欄の記述に該当する漢方処方製剤として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

鼻づまり（鼻閉）、慢性鼻炎、蓄膿症のうに適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸虚弱で冷え症の人では、胃部不快感等の副作用が現れやすいなど、不向きとされている。まれに重篤な副作用として肝機能障害、間質性肺炎を生じることが知られている。

第2欄

- 1 当帰飲子とうきいんし 2 辛夷清肺湯しんいせいはいとう 3 十味敗毒湯じゅうみはいどくとう 4 消風散しょうふうさん
 5 葛根湯かつこんとう

問47 鼻炎及び鼻炎用点鼻薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 急性鼻炎は、アレルギー性鼻炎と異なり、くしゃみや鼻汁等の症状の発現に肥満細胞からのヒスタミンの遊離は関与していない。
- b 鼻粘膜の炎症が副鼻腔にも及んだものを副鼻腔炎といい、慢性のものは一般に蓄膿症と呼ばれる。
- c アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、過度に使用されると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまりがひどくなることもある。
- d 抗アレルギー成分が配合された点鼻薬は、まれに重篤な副作用として、アナフィラキシー様症状を、その他の副作用として、鼻出血や頭痛を生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	誤	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問48 一般用医薬品の点眼薬及び洗眼薬に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 洗眼薬は、涙液成分のほか、抗炎症成分や抗ヒスタミン成分等が配合され、目の洗浄、眼病予防を目的として用いられる。
- 2 一般用点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものがある。
- 3 抗菌性点眼薬は、抗菌成分が配合され、細菌感染による結膜炎や麦粒腫、眼瞼炎などの症状の改善を目的として用いられる。
- 4 アレルギー用点眼液は、抗ヒスタミン成分や抗アレルギー成分が配合され、花粉、ハウスダスト等のアレルゲンによる目のアレルギー症状の緩和を目的として用いられる。

問49 眼科用薬に配合される成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a クロモグリク酸ナトリウムは、結膜や角膜の乾燥を防ぐことを目的として用いられる。
- b 硝酸ナファゾリンは、炎症物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を期待して用いられる。
- c メチル硫酸ネオスチグミンは、コリンエステラーゼの働きを抑える作用を示し、毛様体におけるアセチルコリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する効果を期待して用いられる。
- d ホウ酸は、点眼薬の添加物として配合されることがある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問50 以下の殺菌消毒成分のうち、結核菌を含む一般細菌類、真菌類及びウイルスに対して殺菌消毒作用を示す成分の正しい組み合わせはどれか。

- a マーキュロクロム
- b エタノール（消毒用エタノール）
- c 塩化ベンザルコニウム
- d ポビドンヨード

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問51 以下の症状等に対する一般的な対応の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 打撲、捻挫^{ねんざ}は、まず、患部を安静に保つことが重要とされる。次に、内出血や痛みがあるうちはぬるま湯や蒸しタオル等で患部を温める。また、患部が腫^はれてくるのを抑えるため、弾性包帯やサポーターで軽く圧迫し、患部を心臓よりも高くしておく。
- b 湿疹^{しん}、皮膚炎は、皮膚を清浄に保つため、毎日の入浴やシャワーが推奨される。洗浄力の強い石鹼^{けん}や全身洗浄剤、シャンプー等を用いることが有効である。
- c にきび、吹き出物は、洗顔等により皮膚を清浄に保つことが基本とされる。吹き出物を潰^{つぶ}したり無理に膿^{うみ}を出そうとすると、炎症を悪化させて皮膚の傷を深くして跡が残りやすくなる。
- d みずむしが原因でじゅくじゅくと湿潤している患部には、一般的に水剤が適すとされる。皮膚が厚く角質化している部分には、軟膏又はクリームが適している。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問52 歯槽膿漏^{そうのうろう}及び歯槽膿漏薬^{そうのうろう}に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 歯髓炎^{ずい}が重症化して、炎症が歯周組織全体に広がると歯周炎（歯槽膿漏^{そうのうろう}）となる。
- 2 歯周組織の炎症を和らげる作用を期待して、内服薬に、塩化リゾチームが用いられる。
- 3 炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用を期待して、外用薬に、組織修復成分であるアラントインが配合されている場合がある。
- 4 殺菌消毒成分であるグルコン酸クロルヘキシジンが口腔^{くわう}内に適用される場合、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがある。

問53 ニコチンの作用及び禁煙補助剤に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 タバコの煙に含まれるニコチンは、肺胞の毛細血管から血液中に取り込まれると、すみやかに脳内に到達し、脳^{せい}の情動を司る部位に働いて覚醒、リラックス効果などをもたらす。
- 2 ニコチン置換療法は、ニコチンの摂取方法を喫煙以外に換えて離脱症状の軽減を図りながら徐々に摂取量を減らし、最終的にニコチン摂取をゼロにする方法である。
- 3 ^{あご}顎の関節に障害がある人では、ニコチンを有効成分とする^{そしやく}咀嚼剤の使用を避ける必要がある。
- 4 禁煙補助剤によりニコチン離脱症状を軽減しながら、1年を目途に徐々にその使用量を減らしていくことが禁煙達成につながるとされる。

問54 滋養強壮保健薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 滋養強壮保健薬は、体調の不調を生じやすい状態や体質の改善、特定の栄養素の不足による症状の改善又は予防等を目的とした医薬品である。
- b 医薬部外品の保健薬の配合成分は人体に対する作用が緩和なものに限られるが、配合するビタミン成分の1日最大量は規定されていない。
- c 生薬成分であるカシュウ、ゴオウは、医薬部外品の保健薬への配合は認められていない。
- d ビタミン成分等は、多く摂取したからといって、適用となっている症状の改善が早まるものでなく、むしろ水溶性ビタミンでは、過剰摂取により過剰症を生じる恐れがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	正	正

問55 滋養強壯保健薬に配合される成分とその成分に関する記述の関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ビタミンB12 ————— 赤血球の形成を助け、神経機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- b ビタミンD ————— 体内の脂質を酸化から守り、細胞の活動を助ける栄養素であり、血流を改善させる作用もある。
- c ニンジン ————— 神経系の興奮や副腎皮質の機能亢進等の作用により、外界からのストレス刺激に対する抵抗力や新陳代謝を高めるとされる。
- d アスパラギン酸ナトリウム— 細胞の機能が正常に働くために重要な物質で、肝臓機能を改善する働きがあるとされる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問56 漢方処方製剤の用法用量において、適用年齢の下限が設けられていない場合があるが、そのような場合であっても使用しないこととされている年齢はどれか。

- 1 12歳未満
- 2 7歳未満
- 3 3歳未満
- 4 生後12ヶ月未満
- 5 生後3ヶ月未満

問57 うおのめ、たこ、いぼに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a うおのめは、角質の芯が筋肉にくい込んでいるため、圧迫されると痛みを感じる。
- b たこは、角質層の一部が単純に肥厚したもので芯がなく、通常、痛みは伴わない。
- c いぼは、表皮が隆起した小型の良性の腫瘍である。
- d ウイルス性のいぼは、1～2週間で自然寛解することが多い。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	正	正

問58 殺菌消毒薬の誤用、事故等による中毒への対処に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 誤って飲み込んだ場合、通常は多量の牛乳などを飲ませるが、手元に何も無いときはまず水を飲ませる。
- 2 誤って吸入し、意識がない場合、新鮮な空気の所へ運び出し、人工呼吸などをする。
- 3 酸性の殺菌消毒薬が誤って目に入った場合、アルカリで中和したあと、流水で十分に（15分間以上）洗眼する。
- 4 誤って皮膚に付着した場合、流水をかけながら着衣を取り、石鹼を用いて流水で皮膚を十分に（15分間以上）水洗する。特にアルカリ性の場合には念入りに水洗する。

問59 殺虫剤・忌避剤に含まれる成分について、正しい組み合わせはどれか。

- 1 忌避成分 ————— ピペニルブトキサイド（PBO）
- 2 殺虫補助成分 ————— ディート
- 3 カーバメイト系殺虫成分 —— メトキサジアゾン
- 4 ピレスロイド系殺虫成分 —— ペルメトリン
- 5 有機塩素系殺虫成分 ———— ダイアジノン

問60 一般用検査薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 血糖検査薬については、一般用医薬品（一般用検査薬）として薬局及び医薬品の販売業（店舗販売業、配置販売業）において取り扱うことが認められている。
- b 尿蛋白検査の採尿は、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とし、激しい運動の直後は避ける必要がある。
- c 通常、尿は弱酸性に保たれており、食事が検査結果に影響を与えることはない。
- d 妊娠検査薬は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものであり、実際に妊娠が成立してから1週間後の尿中hCG濃度を検出感度としている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

問61 ^{すい}膵臓に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 胃の後下部に位置する細長い臓器で、^{すい}膵液を回腸に分泌する。
- b 分泌液は、弱アルカリ性である。
- c 分泌液は、脂質を分解するリパーゼなどの消化酵素を含んでいる。
- d 胆汁酸を合成する。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問62 呼吸器系に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鼻汁にはトリプシンが含まれ、気道の防御機構の一つとなっている。
- b ^{へん}扁桃は、^{いん}咽頭の後壁にあり、気道に侵入してくる細菌、ウイルス等に対する免疫機能に関わっている。
- c ^{こう}喉頭には、発声器としての役割があり、^{こう}喉頭上部にある声帯で呼気を振動させて声が発せられる。
- d ガス交換が行われる肺胞の壁は非常に薄くできており、肺胞マクロファージ（^{どん}貪食細胞）による防御機構が備わっている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	正	正

問63 血液に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ^{しょう}血漿中のアルブミンは、免疫反応において、体内に侵入した細菌やウイルス等の異物を特異的に認識する抗体としての役割を担う。
- b 赤血球に含まれるヘモグロビンによって、肺で取り込まれた酸素が、全身の組織へ供給される。
- c 白血球の中では、単球が最も数が多い。
- d 血管が損傷すると、損傷部位に血小板が粘着、凝集して傷口を覆う。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問64 皮膚に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 角質層は、セラミドでできた角質細胞と、ケラチンを主成分とする細胞間脂質で構成されている。
- b メラニン色素は、表皮の最下層にあるメラニン産生細胞で産生される。
- c メラニン色素の防護能力を超える紫外線に曝されると、皮膚組織が損傷を受け、炎症を生じて発熱や水疱、痛み等の症状が起こる。
- d 真皮は、線維芽細胞とその細胞で産生されたコラーゲンやフィブリン、エラスチン等、線維性の蛋白質からなる結合組織の層で、皮膚の弾力と強さを与えている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

問65 腎臓に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

腎臓では、血液中の(a)や、(b)の排出調節が行われている。また、血液の量と組成を維持して、血圧を一定範囲内に保つ役割も担っている。このほかに腎臓には内分泌腺としての機能もあり、骨髄における赤血球の産生を促進する(c)を分泌する。

	a	b	c
1	白血球の産生	胆汁	ヘモグロビン
2	老廃物の除去	水分及び電解質	ホルモン
3	白血球の産生	水分及び電解質	ホルモン
4	老廃物の除去	胆汁	ヘモグロビン
5	老廃物の除去	胆汁	ホルモン

問66 鼻に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 鼻腔の鼻中隔の前部は、血管の分布が乏しく粘膜が厚いため、出血は起こしにくい。
- b 鼻腔の粘膜に炎症を起こして腫れた状態を鼻炎といい、鼻汁過多や鼻閉などの症状を生じる。
- c 鼻の周囲の骨内には、骨の強さや形を保ちつつ重量を軽くするため、軟骨がつまっている。
- d 鼻腔粘膜が腫れると副鼻腔の開口部がふさがりやすくなり、副鼻腔に炎症を生じることがある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問67 泌尿器系に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 女性は尿道が短いため、細菌などが侵入したとき膀胱まで感染を生じやすい。
- b 尿は血液が濾過されて作られるため、健康な状態であれば細菌を含まない。
- c 高齢者では、腎機能が低下して尿量が多くなるため、尿失禁を起こしやすくなる。
- d 男性では、膀胱の真下に尿道を取り囲むように前立腺があり、加齢とともに前立腺が縮小する。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問68 耳に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 耳管と鼻腔はつながっており、鼻腔の鼻汁が外耳道に伝わり耳垢(耳あか)となる。
- b 鼓室は、耳管で鼻腔や咽頭と通じており、小さな子供では、耳管が短くて水平に近く、鼻腔からウイルスや細菌の感染が起こりやすい。
- c 内耳の蝸牛の内部は、骨髄液で満たされ、中耳の耳小骨から伝わる振動が骨髄液を震わせ、その振動が聴細胞の小突起を揺らして、聴神経が刺激される。
- d 内耳の前庭の内部は、リンパ液で満たされ、このリンパ液の動きが平衡感覚として感知される。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問69 筋組織に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 骨格筋は、自分の意識どおりに動かすことのできる随意筋で、筋線維を顕微鏡で観察しても横縞模様は見られない。
- 2 平滑筋は、自分の意識どおりに動かすことのできない不随意筋で、筋線維を顕微鏡で観察すると横縞模様が見えるので、横紋筋と呼ばれる。
- 3 骨格筋の疲労は、グリコーゲンの代謝に伴って生成する乳酸が蓄積して、筋組織の収縮性が低下する現象である。
- 4 不随意筋である心筋では、筋線維を顕微鏡で観察しても横縞模様は見られない。

問70 中枢神経系に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 中枢神経系は脳と延髄のみで構成される。
- 2 脳には多くの血管があり、血液循環量も多いため、多くの薬物が容易に脳に移行する。
- 3 心拍数を調節する心臓中枢は脊髄に存在する。
- 4 脊髄は、末梢からの刺激の一部に対して脳を介さずに刺激を返す場合があり、これを脊髄反射という。

問71 自律神経に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 効果を及ぼす臓器や器官に対して、交感神経と副交感神経の二つの神経線維が支配している。
- b アドレナリンは交感神経の、ノルアドレナリンは副交感神経の神経伝達物質として作用する。
- c 副交感神経の主要な神経伝達物質はドパミンである。
- d 一般に副交感神経は体が食事や休憩等の安息状態となるように働く。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問72 交感神経と副交感神経が各効果器に及ぼす作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	効果器	交感神経	副交感神経
a	目	瞳孔散大	瞳孔収縮
b	気管支	狭窄	拡張
c	心臓	心拍数増加	心拍数減少
d	末梢血管	拡張	収縮

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	正	誤

問73 薬の代謝および排泄に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 小腸で吸収された医薬品の成分は、門脈を介して肝臓に入り、肝臓で一部代謝を受けてから循環血液中に入る。
- b 血漿蛋白質と結合した医薬品の成分は、結合していないものに比べて主として肝臓で代謝を受けやすい。
- c 血漿蛋白質と結合した医薬品の成分は、結合していないものに比べて腎臓で濾過されやすい。
- d 医薬品の成分の中には、胆汁中に分泌され、糞便に混じって排泄されるものもある。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問74 体内での薬の作用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の有効成分の多くは、リンパ液及び血液にほぼ等分に分散し各器官や組織に運ばれて作用する。
- b 薬効をもたらすには、医薬品の有効成分が作用する組織や器官に一定量以上到達する必要がある。
- c 医薬品の服用量と薬効は必ず比例して現れる。
- d 肝機能が低下した状態にある人では、正常な人に比べて、医薬品の作用が強く現れることがある。

1 (a、b) 3 (a、c) 2 (c、d) 4 (b、d)

問75 剤型に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 内服用錠剤は、苦味や刺激性を口中で感じることはないため、高齢者や乳幼児に適した剤型である。
- 2 トローチ剤は、口中の唾液により速やかに溶けるため、水なしで服用できる。
- 3 内用液剤は、有効成分が予め溶液中に溶けたり、分散したりしているため、服用後比較的速やかに消化管より吸収される。
- 4 軟膏剤は、クリーム剤に比べて水で洗い流しやすい。

問76 医薬品が原因となるショック（アナフィラキシー）に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 顔面紅潮、皮膚の痒み、蕁麻疹などの症状であり、死に至るおそれはほとんどない。
- 2 発症してから症状が進行するのに2日ほどを要する。
- 3 医薬品の服用により、アレルギーが原因とは特定できないアナフィラキシー様症状が起こることがある。
- 4 一度医薬品の成分によるアレルギーを起こすと、その成分に対する耐性ができ、再びショック（アナフィラキシー）を起こしにくくなる。

問77 第1欄に記述する症状から医薬品の副作用として最も関連すると考えられるものは第2欄のどれか。

第1欄

全身がだるく、手足に痒みがある。また、皮膚や白目が黄色くなっていた。

第2欄

- 1 前立腺肥大
- 2 ショック（アナフィラキシー）
- 3 偽アルドステロン症
- 4 肝機能障害
- 5 皮膚粘膜眼症候群（スティーブンス・ジョンソン症候群）

問78 第1欄に記述する症状から医薬品の副作用として最も関連すると考えられるものは第2欄のどれか。

第1欄

尿の量が少なくなり、また尿が赤みを帯びている。全身にむくみがあり、倦怠感をおぼえる。

第2欄

- 1 イレウス様症状
- 2 消化性潰瘍
- 3 肝機能障害
- 4 腎障害
- 5 薬疹

問79 医薬品が原因となって起こる急性緑内障発作に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 眼球内の房水が排出されにくくなり、眼圧が低下する。
- b 頭痛や吐き気・嘔吐の症状が現れることがある。
- c 視力低下が起こることはあるが、失明には至らない。
- d 抗コリン作用をもつ医薬品によって誘発されることがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問80 第1欄の記述は末梢神経系の役割に関するものである。()の中に入れるべき字句は第2欄のどれか。

第1欄

末梢神経系は、その機能から、随意運動や()等を担う体性神経系と、生命や身体機能の維持のために無意識に働いている機能を担う自律神経系に分けられる。

第2欄

- 1 呼吸 2 知覚 3 血液循環 4 ホルモン分泌 5 情動

問81 医薬品の販売業の許可に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の販売業の許可には、一般販売業の許可、店舗販売業の許可、配置販売業の許可及び卸売販売業の許可の四種類がある。
- b 卸売販売業者は、業として一般の生活者に対して直接医薬品の販売を行うことは認められていない。
- c 店舗販売業者が、配置による方法で医薬品を販売しようとする場合には、別途、配置販売業の許可を受ける必要はない。
- d 医薬品の製造販売業者がその製造等をした医薬品を、薬局開設者又は医薬品の製造販売業者、製造業者若しくは販売業者へ販売を行う場合にあっては、あらためて販売業の許可を受ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	誤	正

問82 薬局に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 薬局では、医療用医薬品及び一般用医薬品のすべての医薬品を取り扱うことができる。
- 2 薬局では、一般用医薬品のうち第一類医薬品の販売に関しては、薬剤師のほかに、登録販売者が購入者への情報提供や相談対応を行うことができる。
- 3 医療法において、調剤を実施する薬局は医療提供施設として位置づけられている。
- 4 医薬品を取り扱う場所であって、薬局として開設の許可を受けていないものについては、病院又は診療所の調剤所を除き、薬局の名称を付してはならない。

問83 店舗販売業に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 薬剤師が店舗管理者の場合、医療用医薬品の一部を販売することができる。
- 2 第一類医薬品については、薬剤師又は登録販売者が販売しなければならない。
- 3 薬剤師が従事している店舗では、医師が発行した処方せんに基づき調剤を行うことができる。
- 4 店舗販売業の許可は、店舗ごとに受ける必要がある。

問84 配置販売業に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 購入者の居宅に預ける医薬品について、予め代金を請求することができる。
- 2 区域管理者が登録販売者の場合は医薬品を開封して分割販売することができないが、区域管理者が薬剤師の場合は分割販売することができる。
- 3 区域管理者が薬剤師であれば、薬剤師が配置販売に従事していない場合でも第一類医薬品の販売を行うことができる。
- 4 配置販売業は、一般用医薬品のうち経年変化が起こりにくい等の基準に適合するものの以外の医薬品を販売してはならない。

問85 医薬品の対面販売に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品の適正な使用のため必要な情報は、添付文書や製品表示に記載されているため、一般の生活者は専門家による情報提供がなくても容易に理解できる。
- 2 購入者と専門家がその場で直接やりとりを行うことができる「対面販売」が重要であり、これが一般用医薬品の販売にあたっての原則である。
- 3 第一類医薬品については、購入者から説明を要しない旨の意思表示があった場合を除き、書面を用いた情報提供が義務づけられている。
- 4 医薬品の副作用等によるものと疑われる健康被害が発生し、薬剤師又は登録販売者が厚生労働大臣への報告を行う場合にも、購入者側と直接対面でやりとりを行って状況・状態を的確に把握できることが極めて重要となる。

問86 次の記述は、薬事法第2条第1項（医薬品の定義）の条文である。（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、（ ）の同じ記号には同じ字句が入る。

この法律で「医薬品」とは、次に掲げる物をいう。

- 一 （ a ）に収められている物
- 二 人又は動物の疾病の（ b ）に使用されることが目的とされている物であつて、（ c ）、歯科材料、医療用品及び衛生用品（以下「（ c ）等」という。）でないもの（医薬部外品を除く。）
- 三 省略

	a	b	c
1	薬事法	治療	機械器具
2	薬事法	診断、治療又は予防	医療機器
3	日本薬局方	治療	医療機器
4	日本薬局方	診断、治療又は予防	医療機器
5	日本薬局方	診断、治療又は予防	機械器具

問87 次の記述は、薬事法第56条（販売、製造等の禁止）の条文である。（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、（ ）の同じ記号には同じ字句が入る。

次の各号のいずれかに該当する医薬品は、販売し、授与し、又は販売若しくは授与の目的で製造し、輸入し、貯蔵し、若しくは陳列してはならない。

一 （ a ）に収められている医薬品であつて、その性状又は品質が（ a ）で定める基準に適合しないもの

二～四 省略

五 その全部又は一部が（ b ）又は変質若しくは変敗した物質から成っている医薬品

六 異物が混入し、又は付着している医薬品

七 （ c ）その他疾病の原因となるものにより汚染され、又は汚染されているおそれがある医薬品

八 着色のみを目的として、厚生労働省令で定めるタール色素以外のタール色素が使用されている医薬品

	a	b	c
1	日本医薬品基準	不純物	病原微生物
2	日本薬局方	不潔な物質	病原微生物
3	日本薬局方	不純物	病原細菌
4	医薬品原料基準	汚染され	病原細菌
5	日本医薬品基準	不潔な物質	ウイルス

問88 食品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 特別用途食品とは、乳児、幼児、妊産婦、高齢者又は病者の発育又は健康の保持若しくは回復の用に供することが適当な旨を医学的・栄養学的表現で記載し、かつ、用途を限定したもので、健康増進法の規定に基づき、「特別の用途に適する旨の表示」の許可を受けた食品である。
- b 食品のうち、食品衛生法施行規則の規定に基づき、厚生労働大臣が定める基準に従い、栄養成分の機能表示等がなされたもの（栄養機能食品）における当該表示等に関しては、医薬品の範囲に関する基準における医薬品的な効能効果に該当しないものとされている。
- c 健康食品という言葉は、法令で定義された用語ではなく、単に一般的に用いられているものである。
- d 健康食品であれば、特定の保健の用途に適する旨の効果等が表示・標榜^{ほう}されている場合や製品中に医薬品成分が検出される場合であっても薬事法に基づく取締りの対象とはならない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	正	正	正	誤

問89 「医薬品の範囲に関する基準」に関する以下の記述の正誤について、医薬品に該当する要素としてこの基準に示されているものの正しい組み合わせはどれか。

(注) 「医薬品の範囲に関する基準」は、『昭和46年6月1日付け薬発第476号厚生省薬務局長通知「無承認無許可医薬品の指導取締りについて」の別紙。最終改正：平成21年2月20日付け薬食発第0220001号厚生労働省医薬食品局長通知』をいう。

- a 医薬品的な効能効果が標榜^{ほう}又は暗示されていること。
- b アンプル剤や舌下錠、口腔内噴霧^{くわう}剤等、医薬品的な形状であること。
- c 成分本質（原材料）が、専ら医薬品として使用される成分本質を含むこと。（食品添加物と認められる場合を除く。）
- d 服用時期、服用間隔、服用量等の医薬品的な用法用量の記載があること。（調理のために使用方法、使用量等を定めている場合を除く。）

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問90 医薬部外品及び化粧品に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬部外品を販売する場合には、販売業の許可が必要である。
- b 化粧品を業として製造販売する場合には、製造販売業の許可のみが必要であり、通常、医薬品のように品目ごとの承認を得る必要はない。
- c 化粧品としての使用目的を有する製品について、医薬品的な効能効果を表示・標榜^{ほう}しようとする場合には、その効能効果が予め定められた範囲内であって、人体に対する作用が緩和であるものに限る、医薬部外品の枠内で、薬用化粧品類等として承認されている。
- d 薬局や医薬品の販売業において、医薬品と併せて、医薬部外品の販売が行われる場合には、医薬品と医薬部外品を区別して貯蔵又は陳列しなくともよい。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問91 医薬部外品の効能効果の範囲に関する以下の記述について、表示・標榜^{ぼう}することが認められている効能効果のうち誤っているものはどれか。

品目	効能効果の範囲
1 浴用剤	関節痛、筋肉痛
2 ビタミン含有保健薬	滋養強壯、虚弱体質
3 殺菌消毒薬	手指・皮膚の殺菌・消毒
4 育毛剤（養毛剤）	脱毛の予防、発毛促進
5 口中清涼剤	悪心・嘔吐、二日酔い

問92 一般用医薬品と医療用医薬品に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、「その効能及び効果において人体に対する作用が著しくないもの」であるため、人体に直接使用されない検査薬はすべて一般用医薬品として認められている。
- b 用量に関しては、医療用医薬品では、医師又は歯科医師が医学的見地から患者の状態を診て適宜増減することが認められている場合が多い。
- c 効能効果の表現に関しては、医療用医薬品では通常、一般の生活者が判断できる症状で示されているのに対し、一般用医薬品では、診断疾患名で示されている。
- d 一般用医薬品は、通常、医療機関を受診するほどではない体調の不調や疾病の初期段階において使用されるものである。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問93 毒薬及び劇薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 毒薬又は劇薬を、18歳未満の者に交付することは禁止されている。
- b 毒薬又は劇薬については、店舗管理者が登録販売者である店舗販売業者は、開封して、販売することができる。
- c 毒薬又は劇薬を、一般の生活者に対して販売又は譲渡する際には、当該医薬品を譲り受ける者から、品名、数量、使用目的、譲渡年月日、譲受人の氏名、住所及び職業が記入され、署名又は記名押印された書類の交付を受けなければならない。
- d 業務上毒薬又は劇薬を取り扱う者は、それらを他の物と区別して貯蔵、陳列しなければならない。特に毒薬を貯蔵、陳列する場所については、かぎを施さなければならない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問94 以下の記述は、薬事法第36条の3第1項（一般用医薬品の区分）の条文の一部である。（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

一般用医薬品（専ら動物のために使用されることが目的とされているものを除く。）は、次のように区分する。

- 一 省略
- 二 第二类医薬品 その（ a ）等により（ b ）に支障を来す程度の健康被害が生ずるおそれがある医薬品（（ c ）医薬品を除く。）であつて厚生労働大臣が指定するもの
- 三 省略

	a	b	c
1	副作用	身体の構造又は機能	第一類
2	副作用	日常生活	第三類
3	副作用	日常生活	第一類
4	薬理作用	身体の構造又は機能	第三類
5	薬理作用	身体の構造又は機能	第一類

問95 一般用医薬品のリスク区分とそれに応じた情報提供に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 第一類医薬品に分類された医薬品は、安全性に関する新たな知見や副作用の発生状況等を踏まえ、他のリスク区分に分類が変更されることがある。
- 2 第二類医薬品を販売する場合には、薬剤師又は登録販売者が行うことができるが、その情報提供については、薬剤師のみが行うことができる。
- 3 第二類医薬品に分類された医薬品のうち、依存性・習慣性がある成分が配合されたものについては、積極的な情報提供の機会がより確保されるよう、陳列方法を工夫する等の対応が求められる。
- 4 一般用医薬品を陳列する場合には、第一類医薬品、第二類医薬品又は第三類医薬品の区分ごとに陳列しなければならない。

問96 一般用医薬品の販売に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 第一類医薬品を販売する薬局において登録販売者として3年以上業務に従事した登録販売者であれば、第一類医薬品を販売する際の情報提供を行うことができる。
- b 第三類医薬品を購入した者から購入した医薬品に関する相談があった場合には、薬剤師や登録販売者以外の従事者が対応することも可能である。
- c 店舗販売業の店舗管理者として3年以上業務に従事した登録販売者であれば、薬局の管理者になることができる。
- d 店舗販売業者が第二類医薬品を販売する場合には、購入者側から質問等がなくても薬剤師又は登録販売者にその適正な使用のために必要な情報を提供させるよう努めなければならない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問97 苦情相談窓口に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 生活者からの苦情を端緒として、薬事法違反が見出されることはない。
- b 消費生活センターには薬事監視員が配属されていないため、医薬品に関する相談は受けていない。
- c 独立行政法人国民生活センターは、生活者へのアドバイスを行うほか、必要に応じて行政庁への通報を行っている。
- d 医薬品の販売関係の業界団体において、一般用医薬品の販売に関する苦情相談窓口を設置し、自主的チェックを図る取組もなされている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問98 一般用医薬品の広告に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の販売広告としては、店舗において販売促進のため用いられるポスターやステッカーは含まれない。
- b 承認前の医薬品については、効能又は効果に関する広告のみが認められている。
- c 医師が医薬品の効能又は効果を保証する表現は、科学的な根拠がある場合には広告することが認められている。
- d テレビCMにおいて医薬品の誇大広告を行った場合は、それが製造販売業者の作成したものであっても、テレビ局は薬事法の取締りの対象となる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問99 医薬品の適正な販売方法に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品を懸賞や景品として授与することは、サンプル品を提供するような場合を除き、原則として認められていない。
- 2 複数の医薬品又は医薬品と他の物品を組み合わせで販売する場合には、組み合わせた医薬品について、組み合わせた個々の医薬品等の外箱等に記載された薬事法に基づく法定表示が、組み合わせ販売のため使用される容器の外から明瞭に見えるようになっていれば、どのような医薬品を組み合わせてもよい。
- 3 店舗販売業において、許可を受けた店舗以外の場所（出張所、連絡所等）に医薬品を貯蔵又は陳列し、そこを拠点として販売に供するような場合は店舗による販売に当たらず、法に違反するものとして取締りの対象となる。
- 4 購入者がその購入した医薬品を業として他者に提供することが推定される場合において、購入者の求めるままに医薬品を販売すると、法に違反する行為に便宜を与えることにつながるおそれがあるため、医薬品の販売に従事する専門家においては、積極的に事情を尋ねるなど慎重に対処し、状況によっては販売を差し控えることが望ましい。

問100 行政庁の監視指導に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 薬局及び医薬品の販売業に関する監視指導に関しては、基本的に厚生労働省の薬事監視員が行っている。
- 2 医薬品を業務上取り扱う者に対し、不良医薬品について、廃棄等の公衆衛生上の危険の発生を防止するに足る措置を採るべきことを命ずることができる。
- 3 行政庁は、薬局開設者や医薬品の販売業者が、関係する薬事法の規定等を遵守しているかどうかを確かめるために必要があると認めるときは、薬事監視員に、その薬局開設者や医薬品の販売業者が医薬品を業務上取り扱う場所に立ち入り、その構造設備若しくは帳簿書類等を検査させ、従業員その他の関係者に質問させることができる。
- 4 行政庁の監視指導に対して、薬局開設者や医薬品の販売業者が、薬事監視員による立入検査や収去を拒んだり、妨げたり、忌避した場合には、「五十万円以下の罰金に処する」こととされている。

問101 一般用医薬品の添付文書及び製品表示に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 添付文書の記載内容は、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、年1回定期的に改訂される。
- 2 医薬品を使用する人に、その製品の概要を分かりやすく説明することを目的として、添付文書には、効能・効果、用法・用量又は成分・分量等からみた特徴が必ず記載されている。
- 3 小児用のかぜ薬の添付文書には、飲酒や乗物等の運転に関する記載を省略できる。
- 4 一般用医薬品は、一般の購入者が自己の判断で使用するものであるため、添付文書や製品表示に記載されている適正使用情報は、その適切な選択、適正な使用を図る上で特に重要である。

問102 医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 錠剤、カプセル剤、散剤は、取り出したときに室温との急な温度差で湿気を帯びるおそれがあるため、冷蔵庫内での保管は不適當である。
- b シロップ剤を長期保管する場合には、凍結して保管する必要がある。
- c 小児は好奇心が強く、すぐ手を出して口の中に入れることがあるので、小児の手の届かないところに保管する必要がある。
- d 勤め先に携帯する場合は、飲み忘れ防止の観点から、別容器に移し替えて保管する必要がある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問103 次の1～5で示される医薬品成分のうち、「服用後、乗物または機械類の運転操作をしないこと」とされているものはどれか。

- 1 カフェイン
- 2 臭化水素酸スコポリミン
- 3 ヒマシ油
- 4 塩酸プソイドエフェドリン
- 5 スクラルファート

問104 一般用医薬品の販売及び情報提供に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 前立腺肥大による排尿困難の症状がある人に、塩酸ブソイドエフェドリンを販売した。
- 2 透析療法を受けている人に、塩酸ピレンゼピンが配合された胃腸薬を販売した。
- 3 ぜんそくを起こしたことがある人に、フェルビナクが配合された外用鎮痛消炎薬を販売した。
- 4 インドメタシンが配合された外用鎮痛消炎薬の塗布部を衣服、サポーター等で覆い、紫外線に当てないように説明した。

問105 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意「相談すること」に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 摂取した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られているが、「してはいけないこと」の項で「授乳中の人には本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」として記載するほどではない場合に、「相談すること」の項に「授乳中の人」と記載されている。
- b 他の医薬品でアレルギーの既往歴がある人でも、その医薬品を使用してアレルギー症状を起こしたことがなければ、アレルギー性の副作用を生じるリスクは低く、「相談すること」には当たらない。
- c 「次の診断を受けた人」として、現に医師の治療を受けているか否かによらず、その医薬品が使用されると状態の悪化や副作用等を招きやすい基礎疾患等が示されている。
- d 医師又は歯科医師の治療を受けているときは、その人の自己判断で一般用医薬品が使用されると、治療の妨げとなることがあるため、医療用医薬品を使用している場合には、その薬剤を処方した医師又は歯科医師、若しくは調剤を行った薬剤師に相談するよう説明がなされる必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	正	誤
5	正	正	誤	誤

問106 登録販売者等が行う医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の過量使用や誤用等によるものと思われる健康被害については、どのような場合でも必ず報告しなければならない。
- b 報告期限は特に定められていないが、報告する際は、適宜速やかに報告することとされている。
- c 健康被害を生じた購入者に対し、複数の専門家が医薬品の販売等に携わっていた場合、報告は健康被害の情報に直接接した専門家1名から提出されれば十分である。
- d 報告書の送付は、必ず郵送又はFAXで行わなければならない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	正	正	誤

問107 医薬品の製品表示に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 開封しなくても剤型が分かるように、製剤の色や形を外箱に表示しなければならない。
- b 容器や外箱への一般用医薬品のリスク区分を示す識別表示は法定表示事項である。
- c 購入者によっては、購入後すぐ開封せずにそのまま保管する場合や持ち歩く場合があるため、添付文書を見なくても適切な保管がなされるよう、その容器や包装に保管に関する注意事項が記載されている。
- d 薬事法以外の法令に基づいた表示がなされることはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	誤	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	誤

問108 次の1～5で示される医薬品成分のうち、出産予定日12週以内の妊婦が服用すると、分娩時出血の増加のおそれがあるため、服用してはいけないとされているものはどれか。

- 1 ブロムワレリル尿素 2 アスピリン 3 ビタミンA主薬製剤
4 塩酸ロペラミド 5 アミノ安息香酸エチル

問109 以下の緊急安全性情報に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

緊急安全性情報とは、医薬品又は医療機器について重要かつ緊急な情報伝達が必要な場合に(a)からの指示に基づいて、製造販売元の製薬企業等からその医薬品又は医療機器を取り扱う医薬関係者に対して、(b)以内に原則として直接配布し、情報伝達されるものである。

医療用医薬品や医家向け医療機器についての情報伝達である場合が多いが、小柴胡湯しょうさいこうとうによる(c)に関する緊急安全性情報のように、一般医薬品にも関係する緊急安全性情報が発出されたこともある。

	a	b	c
1	厚生労働省	8週間	劇症肝炎
2	厚生労働省	4週間	間質性肺炎
3	(独) 医薬品医療機器総合機構	4週間	間質性肺炎
4	(独) 医薬品医療機器総合機構	8週間	劇症肝炎
5	厚生労働省	4週間	劇症肝炎

問110 購入者等に対する情報提供への活用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬関係者は、医薬品の適正な使用を確保するため、製造販売業者等から提供される情報の活用その他必要な情報の収集、検討及び利用を行うことに努めなければならないとされている。
- b (独) 医薬品医療機器総合機構では、「医薬品医療機器情報提供ホームページ」において、一般用医薬品の添付文書情報を順次、掲載しているが、これは医薬関係者を対象としているため、一般の購入者は閲覧することができない。
- c 医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者が一般用医薬品に疑問を抱いたとしても、それに対する答えは添付文書に記載されていることは少ないので、事前に添付文書情報を収集する必要はない。
- d 製薬企業によっては、自社製品について添付文書集を作成し、医薬関係者に提供している。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問111 次の1～5で示される医薬品成分のうち、鶏卵によるアレルギー症状を起こしたことがある人が服用すると重篤なアレルギー症状を呈する可能性があるため、服用(使用)してはいけないとされているものはどれか。

- 1 タンニン酸アルブミン 2 イブプロフェン 3 塩化リゾチーム
- 4 塩酸ジフェンヒドラミン 5 カゼインナトリウム

問112 医薬品・医療機器等の安全性情報に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 製造販売業者は、医薬品（一般用医薬品を含む）、医療機器等による重要な副作用、不具合等に関する情報をとりまとめ、「医薬品・医療機器等安全性情報」として、広く医薬関係者向けに情報提供を行っている。
- b （独）医薬品医療機器総合機構では、医薬品・医療機器の安全性に関する情報が発出されたときに、その情報を電子メールにより配信するサービスを行っているが、登録販売者は配信登録を行うことができない。
- c 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度による報告を行った薬局開設者、医薬品の販売業者、医療機関等の医薬関係者（過去1年以内の報告者）へのFAX送信（ダイジェスト版）がなされている。
- d 「医薬品・医療機器等安全性情報」の内容のうち、重要な副作用等に関する改訂については、その根拠となった症例の概要の紹介もある。

1（a、b） 2（a、c） 3（b、d） 4（c、d）

問113 一般用医薬品の承認後の安全対策に関する以下の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の組み合わせはどれか。

新一般用医薬品のうち（ a ）については、厚生労働大臣が承認時に定める一定期間（概ね（ b ））、承認後の使用成績等を製造販売元の製薬企業が集積し、厚生労働省へ提出する（ c ）制度が適用される。

	a	b	c
1	ダイレクトOTC	3年	再審査
2	スイッチOTC	3年	再承認
3	スイッチOTC	8年	再審査
4	ダイレクトOTC	8年	再承認
5	ダイレクトOTC	8年	再審査

問114 医薬品副作用被害救済制度に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 医薬品を適正使用したにもかかわらず発生した副作用による被害者の迅速な救済を図るため、製薬企業の社会的責任に基づく公的制度として運用が開始された。
- 2 救済給付業務に必要な費用のうち、給付費については、医療機関から年度ごとに納付される拠出金が充てられる。
- 3 医薬品副作用被害救済制度の医療費の給付は、副作用の原因となった医薬品を製造販売した製薬企業から直接行われる。
- 4 健康被害を受けた本人（又は家族）の給付請求は、各都道府県が受け付けている。

問115 医薬品副作用被害救済制度の給付に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 医療費は、医薬品の副作用による疾病の治療に要した費用を実費補償するものであり、請求期限はない。
- 2 医療手当は、医薬品の副作用による疾病の治療に伴う費用のうち、医療費以外の費用を実費補償するもので、請求期限がある。
- 3 障害年金は、医薬品の副作用により一定程度の障害の状態にある18歳以上の人の生活補償等を目的として定額給付されるもので、請求期限はない。
- 4 遺族年金は、生計維持者以外の方が医薬品の副作用により死亡した場合に、その遺族に対する見舞等を目的として定額給付されるもので、請求期限がある。

問116 医薬品副作用被害救済制度における救済給付の支給対象範囲に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 製品不良による健康被害については、給付の対象となる。
- b 一般用医薬品のうち、一般用検査薬による健康被害については、給付対象にならない。
- c 医療機関での治療を要せずに寛解したような軽度の健康被害についても、給付の対象となる。
- d 無承認無許可医薬品の使用による健康被害については、給付対象にならない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問117 医薬品PLセンターに関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品副作用救済制度の対象とならないケースのうち、製薬企業に損害賠償責任がある場合には、医薬品PLセンターへの相談が推奨される。
- b 医薬品PLセンターは、医薬部外品に関する苦情申立ては受け付けていない。
- c 医薬品PLセンターは、公平・中立な立場で消費者からの申立ての相談を受け付けている。
- d 医薬品PLセンターは、裁判による解決に導くことを目的としている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問118 塩酸フェニルプロパノールアミン（PPA）含有医薬品に対して実施された安全対策に関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

2003年8月までに、PPAが配合された一般用医薬品による（ a ）等の副作用症例が複数報告され、それらの多くが用法・用量の範囲を超えた使用又は禁忌とされている（ b ）患者の使用によるものであった。そのため、厚生労働省より関係製薬企業等に対して、（ c ）等を行うとともに、代替成分として塩酸プソイドエフェドリン（PSE）等への速やかな切替えが指示された。

	a	b	c
1	脳梗塞	高血圧症	回収
2	脳梗塞	高脂血症	使用上の注意の改訂、情報提供の徹底
3	脳出血	高脂血症	使用上の注意の改訂、情報提供の徹底
4	脳出血	高血圧症	回収
5	脳出血	高血圧症	使用上の注意の改訂、情報提供の徹底

問119 一般用かぜ薬による間質性肺炎に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 2003年5月までに、一般用かぜ薬の使用によると疑われる間質性肺炎の発生事例が、死亡を含めて計26例報告された。
- b 間質性肺炎の発生事例以前から一般用かぜ薬の使用上の注意において、「5～6回服用しても症状が良くならない場合には服用を中止して、専門家に相談する」等の注意がなされていた。
- c 一般用かぜ薬の副作用である間質性肺炎の初期症状とかぜの諸症状との区別は難しいので注意が必要である。
- d 間質性肺炎の発生事例を受け、「症状が悪化した場合には、服用を中止して医師の診療を受ける」旨の注意喚起がなされることとなった。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問120 医薬品の適正使用のための啓発活動に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 登録販売者は、薬剤師と同様に、医薬品の適正使用の推進に関する活動に積極的に参加、協力することが期待されている。
- b 医薬品の持つ特質、その使用・取扱い等について正しい知識を広く国民に浸透させるため、毎年10月に「健康日本21」による広報活動が実施されている。
- c 「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」を広く普及し、薬物乱用防止を一層推進するため、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。
- d 薬物乱用の危険性や医薬品の適正使用に関しては、認識や理解が必ずしも十分とはいえない小中学生には積極的に啓発すべきではない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)